大分県中部圏地域公共交通計画の概要

計画の目的

令和4年度における本県内の国庫補助対象地域間幹線バス路線は4社11系統あるが、対象地域の中部圏においては、国庫補助対象地域間幹線バス路線は4路線運行している。（臼杵線、伯大線、佐賀関線、国大線）

対象地域のバス路線では、マイカーの普及や少子化・過疎化の進行等を背景に利用者の減少が続いており、対象地域内の各市では、地域公共交通計画や地域公共交通利便増進実施計画を策定する等して、域内の地域公共交通の維持・確保・改善に向けた取組みを行っている。

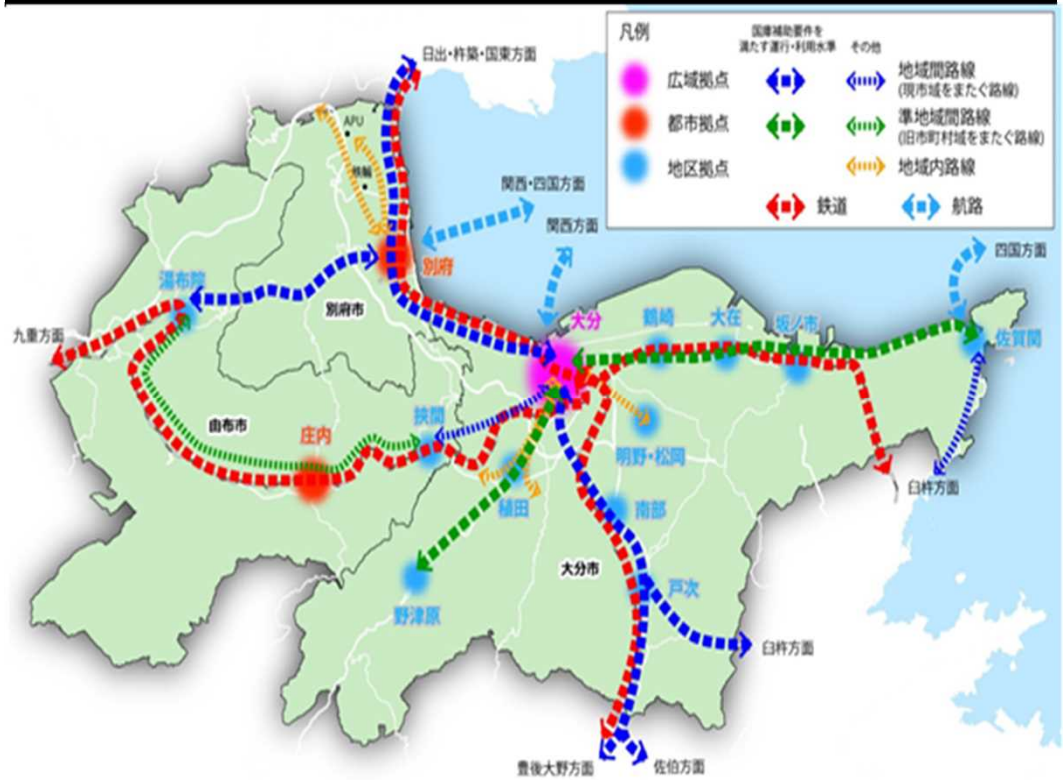
しかしながら、幹線バス路線については、各市で路線全体の運行スケジュールやルートの見直しを検討することが困難であることから、交通事業者による取組みに委ねられている実情があるため、県が主体となって市町村と綿密な連携を図りつつ幹線バス路線の維持・確保・改善に向けた公共交通網の構築を目指す。

計画の対象地域

大分市、別府市、由布市の3市を対象地域とする。
基礎データ（令和2年10月1日現在）➡　人口：623,707人　／　面積：947.04平方キロメートル　／　過疎地域等指定：過疎、山村等　／　高齢化率：29.3%

≪基本的な方針≫
市町村との連携のもとで、大分県の生活や経済活動の基盤を支える公共交通ネットワークの構築

≪目標①≫*広域移動を担う公共交通ネットワークの利便性向上*
≪目標②≫*変化する移動ニーズに対応した輸送資源の最適化*
≪目標③≫*利用者・事業者・自治体協働による持続性の向上*

		現状値(R4)	目標値(R7)
目標①	公共交通利用者数の維持		
	乗合バスの年間輸送人員	12,878千人	11,590千人
	交通不便地域の縮小		
	公共交通人口カバー率	92%	94%
目標②	公共交通事業の収益性の維持		
	利用者1人当り財政負担額	15.3円/人	15.3円/人
	輸送資源全体の最適化の推進		
	人口1人当り公的輸送資源に係る財政負担額	418.4円/人	418.4円/人
目標③	居住者の公共交通利用率の向上		
	居住者の公共交通利用率	24.4%	25.0%

大分県中部圏の公共交通網の将来像